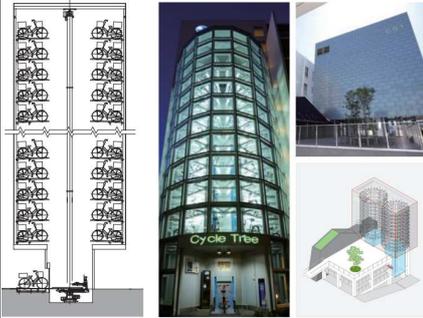
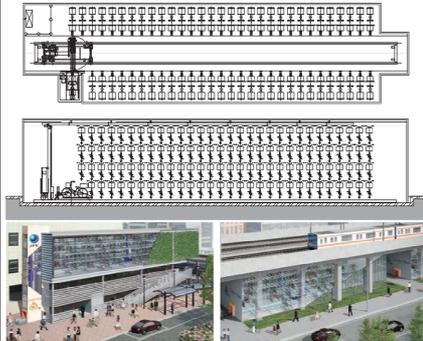
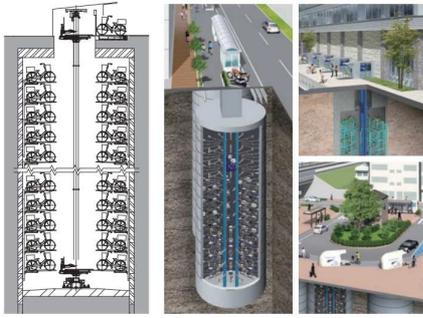
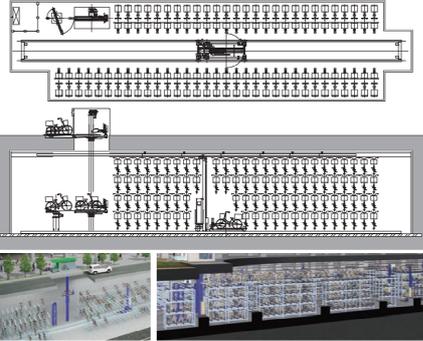


計画4 既存施設の立体化

令和2年時点で、市内には41箇所の公共の自転車等駐車施設がありますが、その中で立体化されている施設は6箇所、他は全て平置き施設となっています。周囲の建物状況や建築条件の確認を行い、土地の長期的な確保が図られた時点で必要に応じて平置き施設の立体化を進めています。

立体化には地上式と地下式の2種類があり、その地域の特性や不足している容量などの状況により、機械式の自転車等駐車施設や自走式の立体利用など、比較検討を図ったうえで、適した施設を選定していきます。

表4 地上式と地下式の概要

参考事例	JFE エンジニアリング(株) 「サイクルツリー」	
	地上式	地下式
形式	<ul style="list-style-type: none"> ・円筒型  <ul style="list-style-type: none"> ・水平型 	<ul style="list-style-type: none"> ・円筒型  <ul style="list-style-type: none"> ・水平型 
収容台数	<ul style="list-style-type: none"> ・円筒型：地下・地上ともに255台 ・水平型：地下・地上ともに240台 	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を入庫口にセットしボタンを押すと、自転車につけたICチップを読み取り自動で入庫。入庫作業は5秒。 ・震度6強に耐えられる設計、板バネ機構により自転車の転倒を防止。機械寿命は30年以上を想定。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前などの狭あいなスペースや、鉄道の高架下等のスペースの有効活用が可能 ・景観に合わせた多彩なデザインが可能 ・ある程度の土地が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地上の占有スペースを最小限にできる ・既存の地下空間や通路等の有効活用が可能 ・高い止水性、耐震性を確保

資料：JFE エンジニアリング(株)web サイト

自転車等駐車施設だけではなく、平面駐車施設の立体利用も考えられることから、将来の施設容量に不足が生じる駅周辺では検討が必要です。駐車施設の上に構造物を組み立て、上部に駐車場所を確保するほか、下図のように、地下式自転車等駐車施設と駐車施設の組み合わせも考えられます。

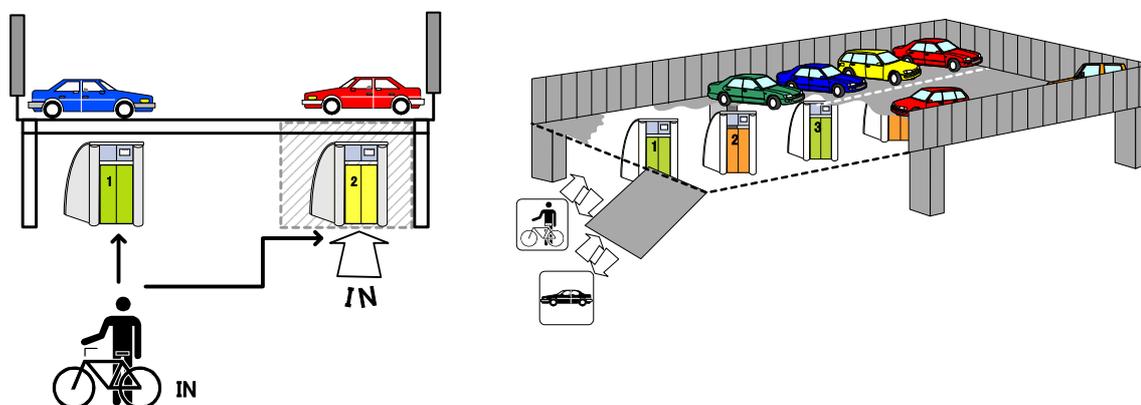


図 5 既存駐車施設の立体利用

自転車等駐車場用地の公有化の状況

現在、既存の自転車等駐車施設 41 箇所のうち 21 箇所が借地となっています。現時点では自転車等駐車施設の閉鎖が予定されていない施設でも、今後いつ土地の借用ができなくなるかわからないといった不安定な状況であることから、土地所有者と調整の上、積極的に土地の長期的確保及び施設の立体化を図っています。